

調査速報

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2015年 11月 11日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-83-2893)

○2015年10月15～23日に、調査船金星丸を用いてスケトウダラを対象にした計量魚探調査、トロール調査、CTDによる環境調査を実施したので結果をお知らせします。調査速報は下記の函館水試ホームページからもお覧になれます。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は、去年の同時期と同様に奥尻島周辺や松前小島周辺の沖合域に分布が多く、スケトウダラ延縄漁場となる沿岸域では少なかった。
- スケトウダラの推定分布量は、昨年をやや下回った。
- スケトウダラの大きさは、小型魚から大型魚まで幅広かった。
- スケトウダラ延縄漁場周辺の水温は、水深300m以深はほぼ平年並であったが、300m以浅は平年並みもしくはやや高かった。

● スケトウダラ魚群の分布

・ 水平分布(図1)

スケトウダラ魚群は、去年の同時期と同様に奥尻島東側の奥尻海峡や奥尻島南側の奥尻海脚、松前小島周辺などの沖合域に分布が多く、スケトウダラ延縄漁場となる沿岸域では少なかった。

・ 鉛直分布(図3)

スケトウダラは、例年と同様に水深200～400mに多く分布していた。

● スケトウダラ成魚の推定分布量(図2)

計量魚探調査結果から推定されたスケトウダラ成魚の分布量(重量)は、昨年(2014年)をやや下回った。当海域の推定分布量は、2004年から2008年までは減少傾向、その後は低水準のまま横ばいで推移している。

● トロール調査で漁獲したスケトウダラの大きさ(図4)

奥尻島東と奥尻島南では尾叉長30～50cm、小島堆では39～54cmのスケトウダラが漁獲された。北側の奥尻島東で漁獲されたものが一番小さく、南にいくほど魚体が大きかった。

● 水温環境(図5)

スケトウダラ延縄漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国南沖で水温の観測を行った。各調査点ともに水深300m以深はほぼ平年並、300m以浅は乙部沖では平年よりやや高く、江差沖、上ノ国南沖では平年並みであった。

● 漁況の見通し

計量魚探調査とトロール調査結果から、当海域で漁獲対象となるスケトウダラ産卵魚の分布量は昨年をやや下回り、魚体は30cm台の小型魚から45cmを超える大型魚まで幅広いと考えられる。ただし、近年の漁況は魚群の沈み込み等の影響を受けるため、分布量から漁獲量の見通しを判断するのは困難である。

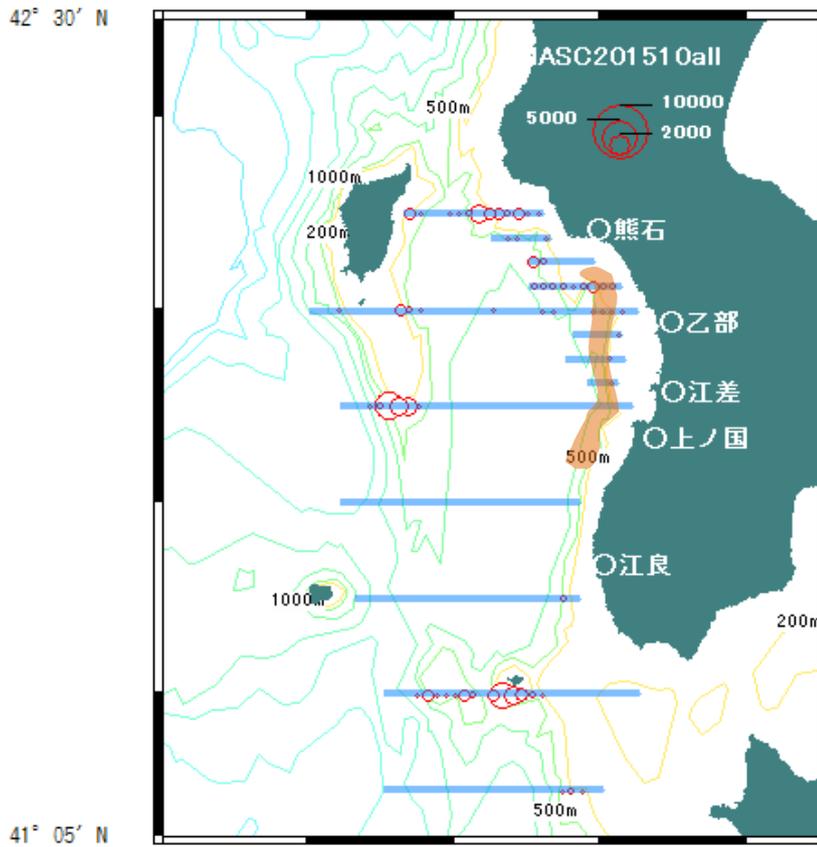


図1 計量魚探調査による魚群反応量 (NASC (m^2/nmi^2)) の水平分布 (2015年10月)
 ※魚群反応量 (NASC) : 1 マイル平方面積あたりの魚探反応の強さを表す。
 ○の大きさが魚群反応量の強さを示す。
 青線が計量魚探の調査ラインを示す。
 ○ : スケトウダラ延縄漁場域

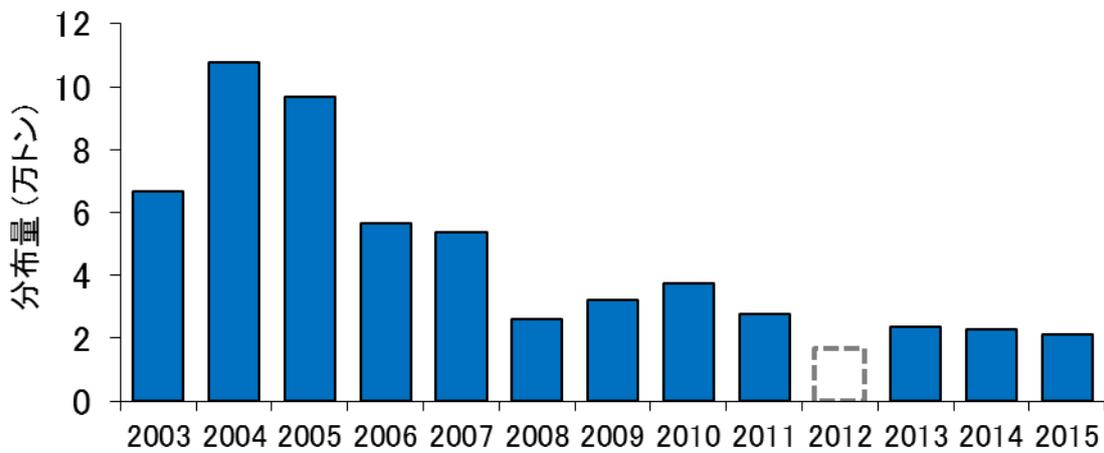


図2 図1の計量魚探調査海域におけるスケトウダラ成魚の推定分布量
 ※2012年は荒天による欠測等により過小評価されているため参考値

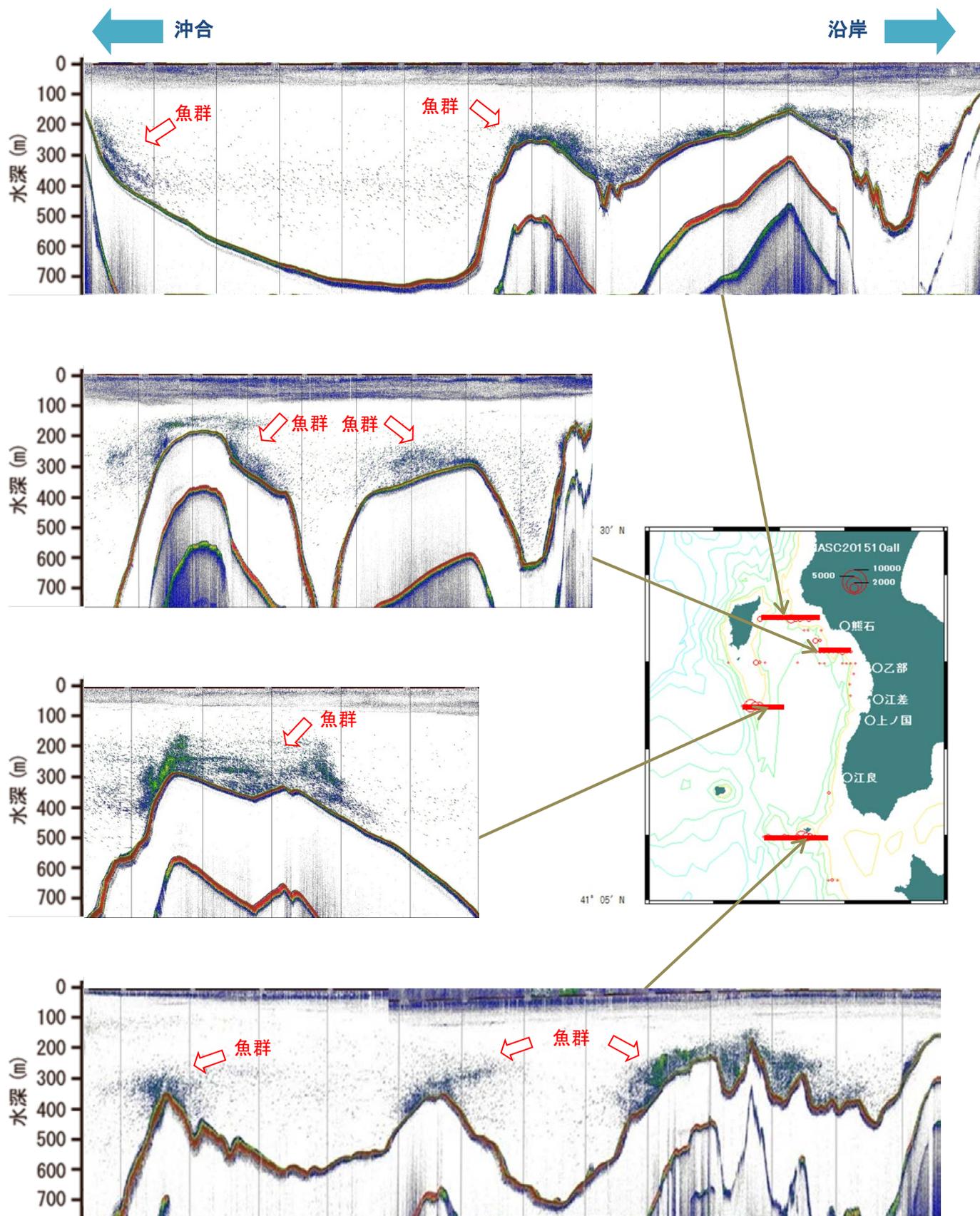


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施) (2015年10月)

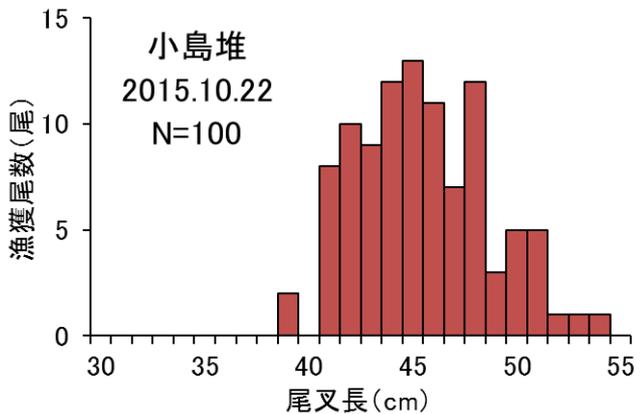
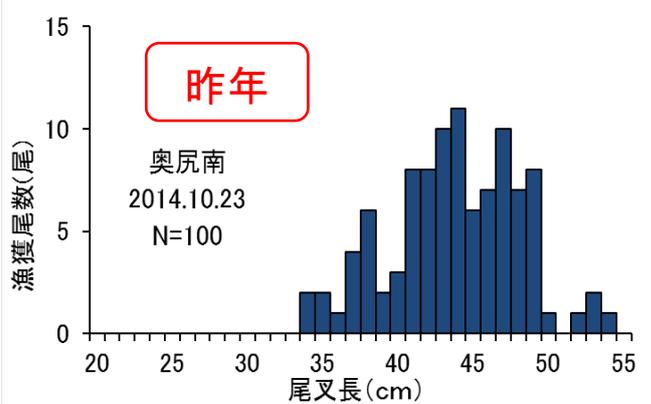
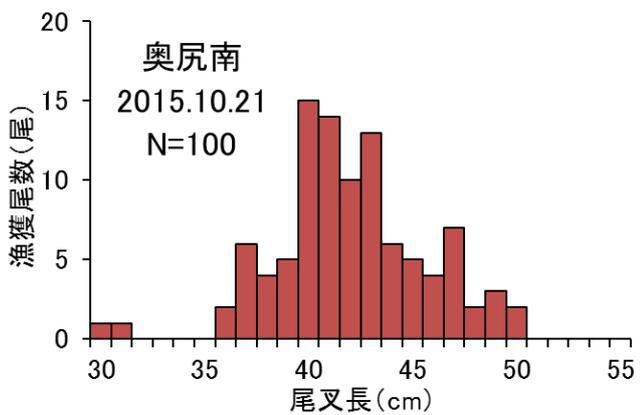
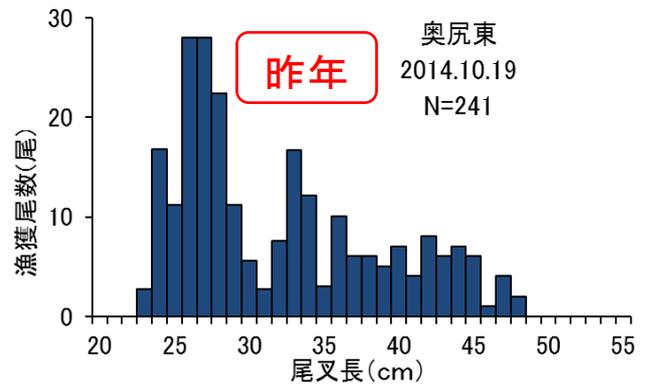
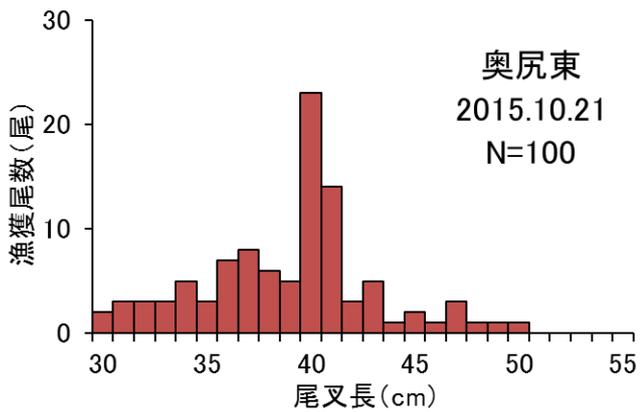


図4 着底トロールで漁獲したスケトウダラの大きさと漁獲地点
(左: 2015年 右: 2014年)

※2014年の尾叉長範囲(横軸)は2015年と異なるのでご注意ください

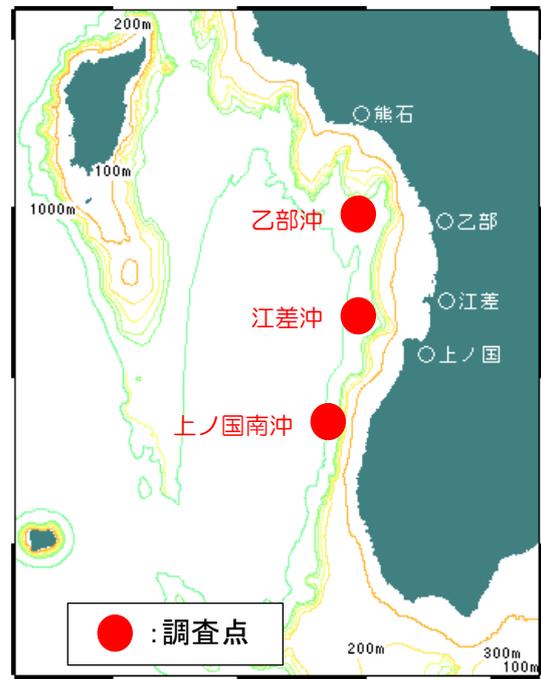
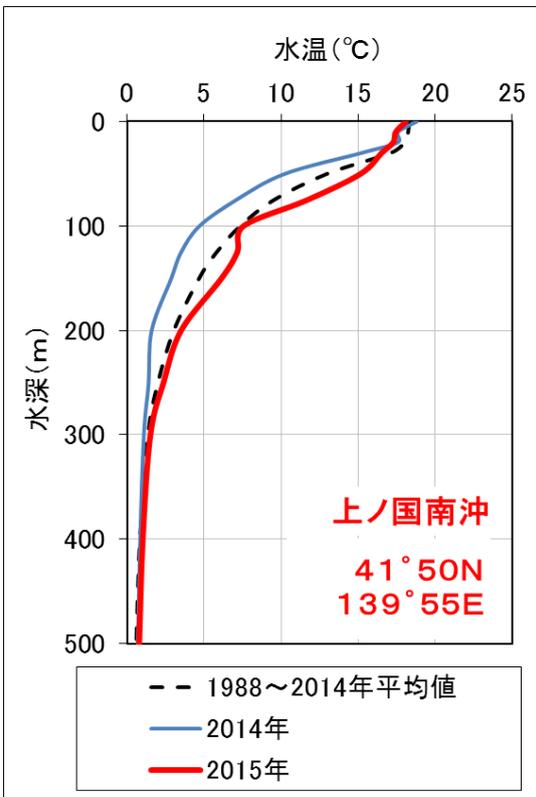
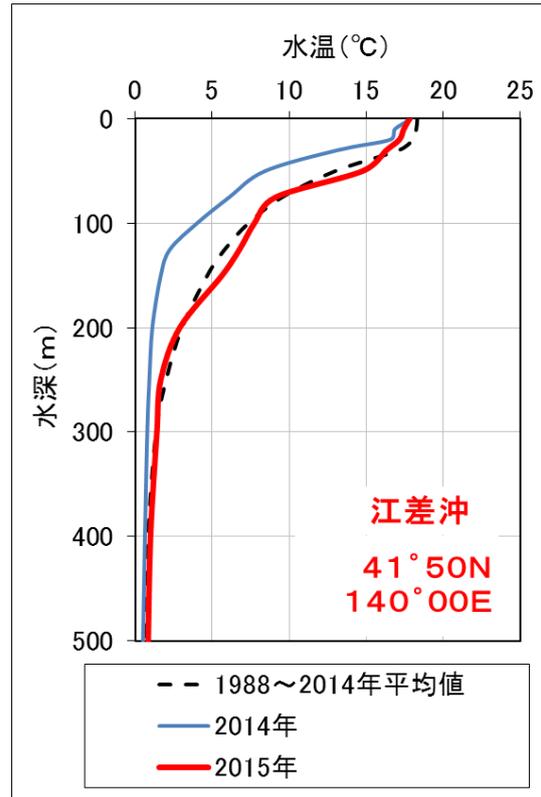
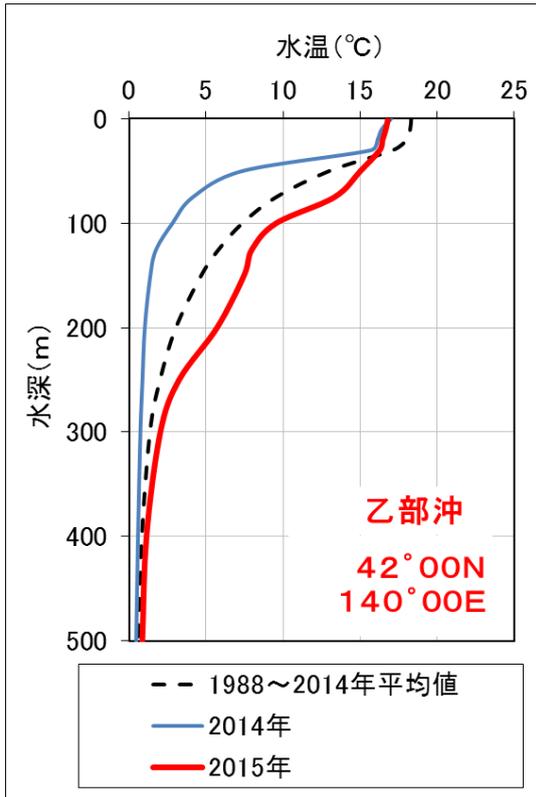


図5 乙部沖(左上), 江差沖(右上), 上ノ国南沖(左下)の鉛直水温分布と調査点位置(10月)